平成25年度　山形県立山形職業能力開発専門校（建設技術科）

（一般・一次）入校学力検査問題（国語）　　受験番号（　　）　　氏名（　　）

一　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

一九九七年九月、インドネシアの山火事が大きなニュースになりました。焼畑農業の火が延焼[a]して山火事になり、煙が海を越えてシンガポールやマレーシアに達して、国際問題にまで発展しました。焼畑は毎年行われているのに、この年は大きな山火事になりました。これもエルニーニョ現象のためです。

本来フィリピン周辺まで来る高温の海水が、南米の西側にとどまってしまうとどうなるのか。フィリピン周辺の海水温が高ければ、水蒸気が発生して雲が発達し、フィリピンからインドネシアのあたりにかけて雨が降るのですが、エルニーニョ現象のために雨雲が西まで来ません。インドネシア周辺はカラカラに乾燥してしまったのです。

このニュースでは単に原因を説明するだけでなく、開発途上国の産業構造と、援助のあり方まで考えてもらおうとしました。焼畑農業は中学校の「地理」で学習します。番組では、熱帯雨林の島というインドネシアの模型[b]を作りました。熱帯雨林を燃やして畑を作り、でた灰を肥料に農業をする。二～三年たつと土地がやせるので土地を捨て、次の畑を作る。これを繰り返しているうちに、以前の畑は元の森林に戻る。農家が細々と自分たちが食べるものだけを作っているかぎり、生態系[c]を壊すことはありませんでした。

しかし、最近は①焼畑農業にも大きな変化がありました。零細農民だけでなく、企業が農業経営に乗り出したのです。ねらいはアブラヤシの栽培です。ヤシの実からとれるアブラは、植物性油脂としてマーガリンや石けん[d]、化粧品の原料になります。これを輸出すれば、インドネシアのような開発途上国にとって、貴重な外貨が獲得[e]できます。国有地の森林の開発許可を得た企業群が、農地を一気に開発する方法が、焼畑農業でした。大規模に火を放ち、これが大変な山火事になりました。企業の大規模な焼畑農業が、大きな被害をもたらすことになったのです。開発途上国の経済の構造が変わらない中で、企業が農業に乗り出したことに気象の変化が重なり、大規模な火事につながったのです。

熱帯雨林が減ることは、二酸化炭素の増加による地球温暖化につながります。インドネシアの山火事は、日本にとっても他人事（ひとごと）ではありません。この山火事には、日本からも国際緊急援助隊が出動しました。こういうかたちで日本が援助をするのは当然のことですが、②対症療法にとどまらない援助のあり方が問われることになります。

開発途上国への援助の方法については、「②魚を贈るより、魚のとり方を教えなさい」という言葉があります。もらった魚を食べてしまえばおしまいで、次の年にも魚をもらうことを期待するけれど、魚のとり方を知れば自分で釣りをするようになり、自立することができるという意味です。番組で、この言葉を説明しました。

インドネシアの山火事は、外貨獲得のための③単一的な農業が、自然破壊につながることを教えています。無理な開発をしないですむような経済にするお手伝いが、「魚のとり方」を教えることになると思うのですが。

山火事ひとつでも、③いろんなことが見えてきます。

（池上　彰『これが「週刊こどもニュース」だ』による）

問一　――線部aからeまでの漢字の読みをひらがなで書きなさい。

問二　――線部「気象の変化」とは、ここでは何のことを示していますか。具体的に説明している言葉を、本文中から八字で抜き出しなさい。

問三　〰線部①「零細」、②「対症療法」、③「単一的な」の意味として最も適切なものを、あとのア～エからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

①「零細」

ア　規模が極めて小さい
イ　規模が極めて大きい
ウ　以前から住んでいる
エ　新しく進出してきた

②「対症療法」

ア　状況を一気に改善する唯一の方策
イ　解決のためには役に立たない方策
ウ　根本的な解決をもたらす最善の方策
エ　根本的な解決にならない当面の方策

③「単一的な」

ア　多くの種類が組み合わされた
イ　一つの種類だけで構成された
ウ　細かなところまで計画された
エ　計画がないままに実施された

問四　――線部①「焼畑農業にも大きな変化がありました」とありますが、それはどのようなことですか。「・・・・こと」となるように、本文中から十三字で抜き出しなさい。

問五　――線部②「魚を贈る」とはどういうことをたとえて表現したものですか。この表現についての説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で書きなさい。

ア　相手の国に金銭的な援助を行うこと
イ　相手の国から金銭的な援助を受けること
ウ　相手の国に食料を輸出すること
エ　相手の国から食料を輸入すること

問六　――線部③「いろんなことが見えてきます」とありますが、どんなことが見えてくると筆者は説明していますか。「いろんなこと」の中から一つを取り上げて、簡潔に説明しなさい。

二　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「なあ、春子」ケン坊が言った。ケン坊に、春子、と呼びかけられると、いつもわたしのおなかのあたりは、とくんとくんとなる。①温水プールの水みたいになまあたたかい何かが、おなかの中に満ちてくる。

「なに」わたしは①ぶっきらぼうに答えた。ケン坊にわたしのおなかの中に満ちてくるもののソンザイを、決して知られたくなかった。ケン坊だけではない、母にもケン坊のおばさんにもタンニンの雅代先生にも親友のキョウコちゃんにも、誰にも知られたくなかった。知られたとたんに、それはわたしの体のどこかにある見えない栓からしゅうっと流れ出て、②あとかたもなく消えてしまうような気がした。

「たい焼きでも食うか、それともアイスにするか」

アイス、ときっぱり答えて、わたしはケン坊の先に立った。アイスならば、「稲や」のおぐらアイスだろう。ケン坊はゆったりとした大股で、わたしの後をついてくる。川と平行する道ぞいに「稲や」はある。町工場や文房具の問屋や小さな商店がぽつぽつと並ぶ、狭い通りである。「村山紙工」という字を横腹に書いたトラックが、わたしの目の前をぶうんと通りすぎた。このところ雨が降っていなくて、道は少しほこりっぽい。カドのお稲荷さんに、緋寒桜が咲いていた。

「春子、あぶないな、もっと端を歩け」ケン坊が言った。

「さっきは、端を歩くなって言った」わたしが答えると、ケン坊はわたしの頭のてっぺんをてのひらではたいた。

頭たたかないでよ、ばかになるから、と言いながらわたしはケン坊の腕につかまった。そのままケン坊の腕にぶらさがるようにして、通りを歩いた。わたしはいちいちどの店の前でも立ち止まった。ケン坊もしばらくわたしにつきあって止まるが、すぐに歩きはじめる。早く来い、といいながら、わたしのセーターを引っぱる。

「ほんとに犬の散歩だな、春子と歩くのは」ケン坊は言って、空を見上げた。見上げるケン坊の頬のあたりが、削げている。ケン坊、とわたしは呼びかけようとしたが、ケン坊のまなざしがあんまり静かすぎて、呼びかけられなかった。

通りのはずれに釣餌屋があった。「いい赤虫あります」だの「ぶどう虫分けます」だのと書いた手書きの札がマドガラスに貼りつけてある。わたしが札を読んでいると、ケン坊は「おっ」と声を出した。

「水かまきりがいるよ」

店の前にたらいが置いてあって、中に肢の長い昆虫がいた。何種類かの藻が漂う水の面に、ふわりと浮いている。

「水かまきりっていうの、これ」

「今どき①珍しいなあ」

そのままケン坊はじっと水かまきりに見入った。水かまきりは、ぜんぜん動かなかった。たらいを手で揺らしても、ただじっと浮いているばかりだ。

「死んでるのかな」わたしが聞くと、ケン坊は「死んでるのかもな」とゆっくり答えた。

ケン坊の［A］が、さっき空を見上げていたときと同じように、いやに②静かだ。たらいはいくつかあって、ほかのたらいには、透き通った小さなえびや小魚が何匹かずつ泳いでいる。

「ケン坊」わたしは小さな声で言った。わたしのすぐ横でしゃがんでいるケン坊の体温が、隣のわたしに伝わってくる。ケン坊はいつも大きくてあたたかい。ケン坊は、じっと水かまきりのたらいを見つめていた。

「ケン坊、アイス食べに行こう」わたしが言うと、ケン坊は立ち上がった。もう一度空を見上げ、少しため息をついて、歩きはじめようとした。

「あ、水かまきりが」

わたしは声をあげた。水かまきりが、水面から水中に沈もうとしていた。長い肢を静かに動かし、尻からつき出た棒のようなものを水面にたてて、水かまきりはゆらゆらと水の中を泳ぎはじめた。

「お」ケン坊も声をあげた。

「生きてるなあ」

「生きてるねえ」
ケン坊とわたしは顔を見あわせた。水かまきりはゆっくりと底まで沈み、それからふたたび水面に上がってきた。風が吹いて、たらいの水をかすかに揺らした。よし、とケン坊は小さくつぶやいた。よしよし、生きてたんだな。小さく強く、ケン坊はつぶやいた。

「春子、行くぞ」そう言って、ケン坊はどんどん歩きはじめた。わたしはケン坊のあとをあわてて追った。春の暖かな風が、ケン坊の短い髪をそよがせる。稲やの前まで、ケン坊はひといきで歩いた。
「おぐらアイス、二個ずつ食うか」ケン坊は言って、笑った。久しぶりに聞く、ケン坊のふわっとした大きな笑いだった。うん、二個ずつだね。なんだかわからないけれどわたしも嬉しくなって笑いながら、答えた。ケン坊は店の奥に向かって、おぐら四本ね、と大きな声で言った。風が、稲やの前に植えてあるおもとの葉を、揺らした。

（川上弘美『はづきさんのこと』による）

問一　――線部aからjまでのカタカナで記した部分は漢字に直し、漢字で記した部分は読みをひらがなで書きなさい。

問二　本文中の［A］に入る言葉を、これより前の部分からひらがな四字で抜き出しなさい。

問三　═══線部①「珍しい」、②「静かだ」の品詞は何ですか。次のア～エの中から、それぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア　動詞　　イ　形容詞　　ウ　形容動詞　　エ　助動詞

問四　～～線部①～③の語句は、どのような意味ですか。後のア～エの中から最も適切なものをそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

①「ぶっきらぼうに」
ア　丁寧さのない態度で　　イ　余裕のない態度で
ウ　落ち着かない態度で　　エ　愛想のない態度で

②「あとかたもなく」
ア　全てなくなってしまうように　　イ　あわてて動き回るかのように
ウ　以前の姿を完全に残すように　　エ　ゆっくりと進んでいくように

③「かすかに」
ア　非常に力強く　　イ　とても弱々しく
ウ　すぐに分かるように　　エ　全く動かないで

問五　――線部①「温水プールの水みたいになまあたたかい何かが、おなかの中に満ちてくる」という部分から、「春子」のどのような気持ちが感じられますか。「春子」の気持ちを説明したものとして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　ケン坊に対して心ひかれ、心地よい温かさを感じている
イ　ケン坊に対する嫌悪感があり、不快なものを感じている
ウ　ケン坊を含む周囲の人たちに対して、危険を感じている
エ　ケン坊以外の大人たちに対しては、安心感を抱いている

問六　――線部②「小さく強く、ケン坊はつぶやいた」とありますが、この部分からは、「ケン坊」のどんな気持ちが感じられますか。あなたの考えを簡潔に書きなさい。

三　次の文章を読んで、後の各問に答えなさい。

楚人（そひと）に盾と矛と※1を鬻（ひさ）ぐ者あり。
これをほめていはく、①「わが盾の堅きこと、よくとほすものなきなり。」と。
また、その矛をほめていはく、②「わが矛の利※2なること、物においてとほさざるなきなり。」と。
ある人いはく、「子の矛をもつて、子の盾をとほさばいかん。」と。
その人応ふることあたはざるなり。

（『韓非子』による）

※1　鬻（ひさ）ぐ……売る。　　※2　利なること……鋭いこと。

問一　――線部①「いはく」、②「とほす」の読み方を、現代仮名遣いで書きなさい。

問二　「楚人」は、自分が売っている「盾」と「矛」をどのようなものだと説明していますか。それぞれ簡潔に説明しなさい。

問三　――線部「その人応ふることあたはざるなり」とありますが、質問に答えることができなかったのはどうしてですか。その理由の説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　何を質問されているのかが分からなかったから
イ　自分が言ったことがうそだとばれてしまうから
ウ　今まで試してみたことがなく不確かだったから
エ　その質問をした人の態度に腹が立っていたから

問四　この話から「矛盾」という言葉が生まれました。このような言葉を何と言いますか。最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　類義語　　イ　対義語　　ウ　故事成語　　エ　四字熟語

四

次のaからeの――線部の漢字として適切なものを、後の〔　　〕の中の文字からそれぞれ一つずつ選び、解答欄に記入しなさい。

a　警察官としてのテキ性があるかどうかを検査する。
〔的　適　敵　滴　摘〕

b　選挙に立候補した人のスイ薦者になる。
〔水　垂　粋　推　吹〕

c　人コウ衛星が地球の周りを回っている。
〔口　校　公　高　工〕

d　スイスはエイ世中立国として有名である。
〔永　栄　映　営　英〕

e　父は本の出パン社に勤務している。
〔版　班　判　板　反〕

五

次のaからeの（　　）に単語を入れると「　　」の意味の慣用句が完成します。後の語群の中から適切な単語を選び、解答欄に記入しなさい。

a　腕が（　　）　「腕前をみせようとして、じっとしていられない」
b　小耳に（　　）　「聞くとはなしに聞く」
c　目に（　　）　「だまって見過ごすことができない」
d　水に（　　）　「過去のいざこざなどをなかったことにする」
e　手を（　　）　「仕事などをいい加減にする」

〔流す　はさむ　抜く　余る　鳴る　巻く　打つ〕

【答案用紙】　平成25年度（一般・一次）入校学力検査問題（建設技術科）

受験番号（　　）　　氏名（　　）

一

問一 a	えんしょう
問一 b	もけい
問一 c	こわす
問一 d	かくとく
問一 e	はなち
問二	エルニーニョ現象
問三 ①	ア
問三 ②	エ
問三 ③	イ
問四	企業が農業経営に乗り出したこと
問五	ア
問六	例：単一的な農業が自然破壊につながること

※28

二

問一 a	存在
問一 b	担任
問一 c	せん
問一 d	ぶんぼうぐ
問一 e	とんや
問一 f	せまい
問一 g	角
問一 h	窓
問一 i	ただよう
問一 j	となり
問二	まなざし
問三 ①	イ
問三 ②	ウ
問四 ①	エ
問四 ②	ア
問四 ③	イ
問五	ア
問六	例：何かを決意しているような気持ち

※38

三

問一 ①	いわく
問一 ②	とおす
問二 「盾」について	例：たいへん堅い物で、突き通せるものはない。
問二 「矛」について	例：たいへん鋭い物で、どんな物でも突き通せる。
問三	イ
問四	ウ

配点　2点　3点

※14

四

a	適
b	推
c	工
d	永
e	版

※10

五

a	鳴る
b	はさむ
c	余る
d	流す
e	抜く

※10